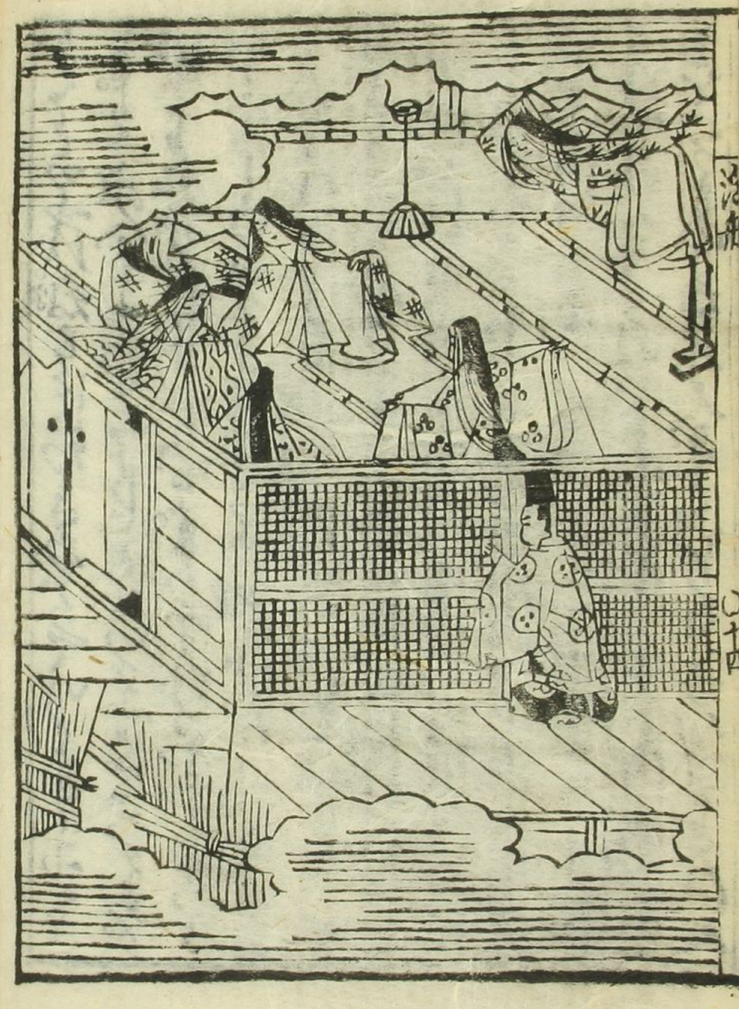
2185
24



て。又きんやうもちまれば悪びやうにこのうしをたゝ
ふれ給。かゝをきてつけて。こそといふ。白こゝ。ぼくり
まへだ。右をかてゐる志ちばきときて志りて。殿のおもし
ろうまやと云て。おきて出たりぞ。白これあをうとの給
へば。右を付おやしうまくちきほどまも侍るうれ。歌いさ
うふけぬらん抱をといふ。白付へまたりまべかなり
と仲信がいひつれば。おどろかれつるまに出たちて。
いとこそまりなりつれ。おのおけうとのまふこ志
いとよろうまく。白付ひませまて。悪びされば。右をかくもよう
ぎりいまるのしまちまていとわりなくおそろしき
ことのありつれば。おやしうまくちきなんぞくら

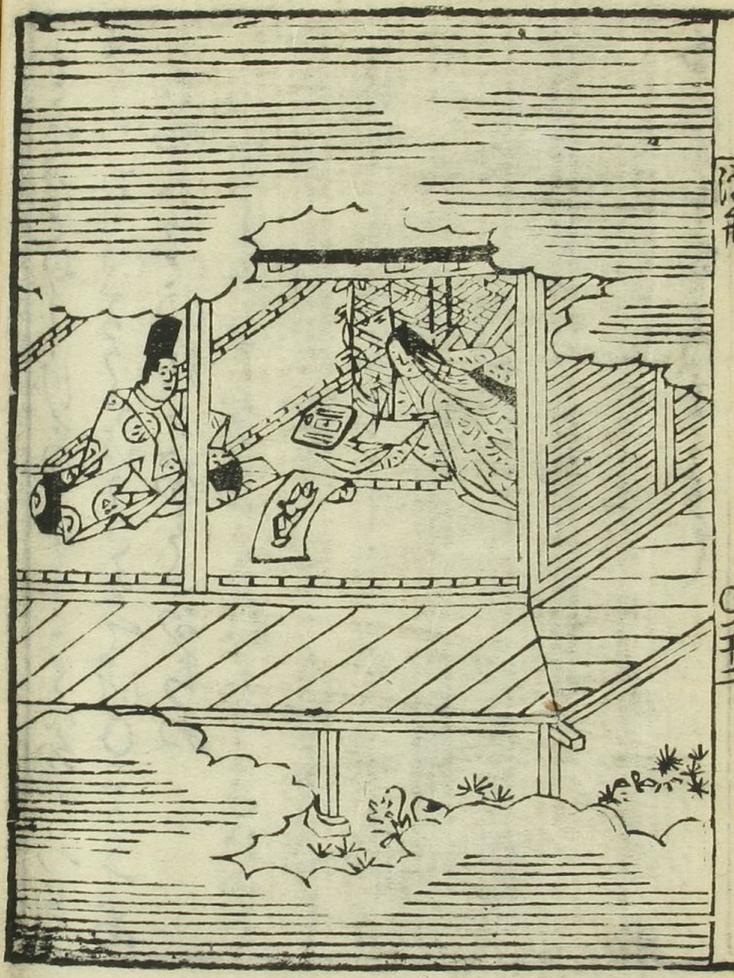
うるをとのまへば。右を付おもいしごとおもてまどひて。ぶ
らりやうまの。白付まれ人にまうすなまぎらはそ人なと
ろうすなとゝいとらうく志ちはんまて。まとうを
ほのかにいろはこ志ちはこゝかれはまくひまくひ
ていり給。ゆく右をかきことのさ風とのまへるゆうなり
はしまぐこなるんといとおしくて。我もうくろへ
てみまるゆとほうやうまなくとさうぞ給
てがのうがしさこともをさらずぢ白浮へうよりまゝ
はぞどもぬぎなれがかまおしくまゝ食ばれ
のおまうしにこそなどいへど。白のまれ給ずはぬ
夜まいりて。右を祿つる人ぐおこしてぞしまぞきて

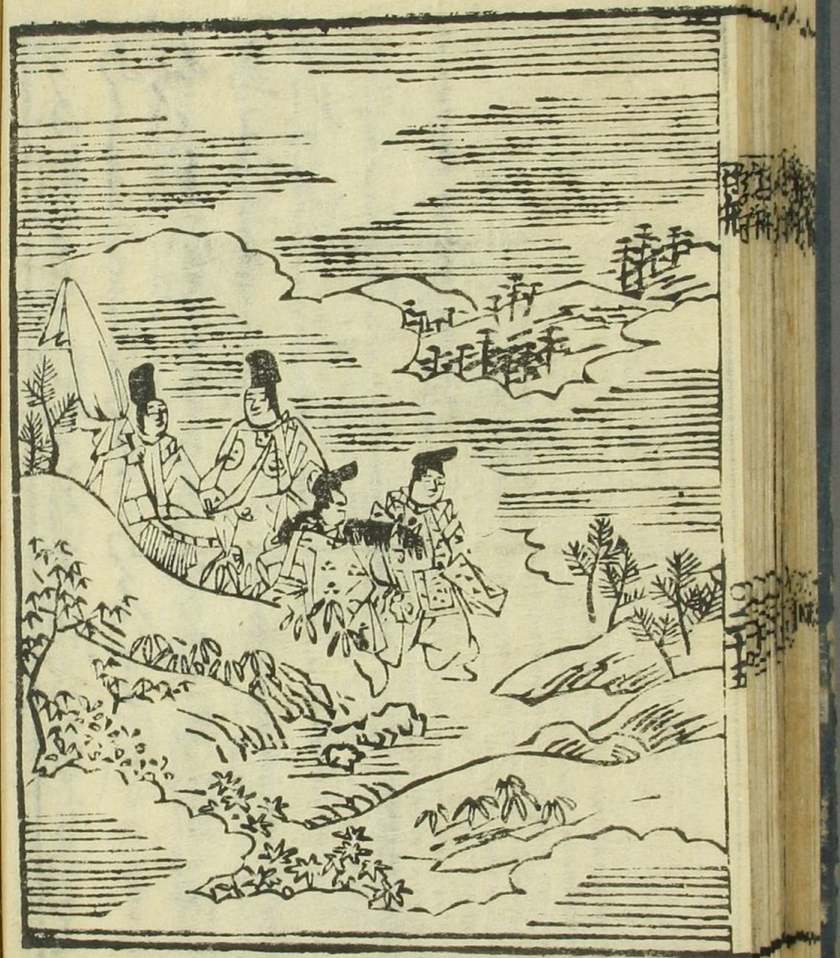
みな稀ぬ。ぬとものの人なるど。其のこゝにはしらぬなる
ひまて。我なる夕夜のおりましぎ海かれ。ろ流わり
さ海をはらんじ。しらぬよなるどぎうしらが私人も
あれど。あなかまの人。我ごしいさごめくしもりぞ。
うしろまゝしきなどいひて稀ぬ。女（はん）ぞ。おしぬ人
なりまりとしゆゑ。おさまりうゆうじなれど。ぞ
をぞよせさせ給ひすぎいとつてましかりしてあまてぞ
まぎりなりし流心なれがぴさふるにあさまし
ちじめよりもあらぬ人としりさしだいさてかいふ
かひもあるべき紙。夢のうちするにやうくこの
なりのはしかりしぞしごろねりひけ海さ海乃

給まえ。此（白）女と思りぬ。いよくもづりしく。女の（中）うへ乃
おぼさんことなどしまぎてこゝまぎさことなけ
まじがぎるもなうなく。（白）女もなかくふてぞかや
まくあひさざんことなどをおぼまになふ。
我ハこゝにおまにあく。ぬとも乃人きてこは流ろぞ
をさてまいれり。（白）出給ひんんちもなくあらず
あれなるにまくおもしまさんとまうくれ
ば。家まハもとめさはがろとも。ふがうかくてあ
らん。なまことも。いけるぞうのこめこそあれ。こゞ
まいでおりまさば。海ことまあべくおぼされ
どこの方ををめしよきて。（白）いとんちなしとぞれ

あなたは海く下せるどのちりづりをきくこゝん
ぽいといふじゃんといひねこらあらちおそろしおや
やうくは（左をん）（並）夜の此使乃あしん時いりふいたんとうつ
をの親をもぐふことなくてくしまへとだぐさん
をそこそけり石山まくふまうでさをんとて母
君のむかふなりそうぐ此人どもこれさしじ（精を）まぎ
まいりてあるふぎ（今日）さしバくふまえわこしを給
まじきなありなぷいとくちあしきこといふ日たら
くなれバがうしなどあぞてぷをぞちくつうまつ
ゐけりもやのもこぶれハみなあろしてこしてどの
いこちどうもそつをこうり母（浮母）君もやこうくあらす

ほとそ夏ミさんがしりつとひなすなりきら
此てうづるどまいりこうさ海ハ遣いのやうなれどまう
なひのざ海しうおぼされてそこにあらりを給ひ
とのまふ女（浮）とさ海ようんまくさ人どこなるひ
こうまぷ時のまもみざしんハしぬべしとおぼしぶ
あ人をんざしふしとはぷるをいふまやあらん
と也しらくまもぷやしりけり効なぷこれもく
もの・ゆえあらバいりふおぼさんとまぶけりれうへの
此あらうを也出さこゆれど（自得浮ハ流ぞとのを）しらぬを返こいとん
うしぷ（ぷ）ぷあしんまくまのまへいこじさぎ寸といふ
ともぷいりくなんと衣なるべきとけりなうさひまへ





さきぐこゝろとしいとみまてぐこくしまだしもた
ちとまゝまゝほしくおぼさるれど。人の物いひ乃
やまゝらぬよい雨さしたりぐろやまれさ雨
あてこそなどおぼしておゝはよゝりまゝ
いとゝうもおぼしたるびまへるうれとぷぐしく
おぼし出ることおゝしよ雨さりくりぎさしぐ
の十日の程は内(今上)よ又何ゝしを給とそこの白かも
大将もまいりおひまへりおりよおひたるまの志
ぬぐどもよ。白の法志いいとめでたくて。梅ぐ
るどうくひ給ぬふぐども人ありぬこゝろるゝ雨さ
ゝまへる法さ雨まそまぐろちるゝとおぼしいる

まさ給ふてろぐさきのすぐこも下ろうれい
とおしうゝゆるに。宇治橋のまゝくとみまさ
さるくよ。紫つゝ舟乃下ぐよりちぐひたるちどほ
うふていめまれぬことをぐのゝぐりあいめたる示な
きぐぐ給さびぐとに。粗そのゝゝ此とのさぐどの
んちしてぐとうゝらぬひと絶みかしたるんぐ
まぬづしきなるの長おりるべき程なり。
いてしきへ(大)よう(浮ノ)へられたるもこゝよなるゝす
やうく地のんしり。船なれりまこさ雨のおりし
さもこゝろなくみまきりしたるんち志給ま女えう
さあいめたるんのうちよもよかさなく泪ども寸

つゝきんよりくてみゝつゝんうしとなりしやうしてい
しくうしくしかし二の文をいとやむごとなくて
まちなりんぬまゝへるありさぬるどもうくり給。
かのうくうぐめのひし一とはのくまひ出ぬぞ
まくきや時分にてうぐ給ふぐものるどもうち
ぎてまいる給ふんじていくしくうしづかめる
まふ給ふ文めりしきわうぢのあちよいとお
うしとしてこの大夫とぞ物給ひしけり。
ゆきのかりけまろよ我もむかしをしやりまへ
ばかりさしくよ事がりけ

ちやうよきしくとく夕日よくやきてるに
よべまけうしみちのわりなるどおもれなか
うそへてうちまふ
白の雪汀乃ほりふまけて君まぞ
まどふ君ハまぞりずこたくこの里ハ馬ハおれど
るどおやもれまうめし出てよるひし給
浮りしぐれみぎはよこほう雪ようもなり
ぞしまてぞ我ハまをぬべきとうさけやうこの
中宮をとぐめ給げよくしてもうきそげるれと
ちづしくてひさやるとけさしでぶふみるうひあ
ぬけさまぬつよくおかれよいしじと人のんまもめ

てそこよりつれて出給ものあがすいこじとおぼさるゝ
やうれかへさは。祇二条院にのぞおもしまず。いとあや
ましうしのてゝものなどもあらてきこしめさず。日
をへてあ給ふやを給ひたりしきうもる後。うちにもい
げくもおもかけなげくに。いとくものきえがしく
て。ぱ久ぶるに海ゝはいえつきさ給ひず。かしこゝのも
かのさうしき見れと。むすめのゝまうしに所に出たり
けるゝ。ゝうきにかれば。人やまくもえこずかへあや
しきすまゐをさぐられ。夏のまて遠給ひんさ海を。
ゆかしくまいとゝて。母そもしるべきめるゝ。
しのびこゝろさ海ちがらもぢかくけるしてんとを

おぼしなりにかれば。いとめやまくうれしかるべ
きことにしてやうく人もとめ。ひらえれめやまと
きなどむかへてをこをのふ。我ふまもそれとそれ
あるべきことにぞ。たゞめより待わられとは思ひなげく
あるがちなる人の法をとを思ひ出るに。恨を給
しさ海の給しことだ。おもかげにつとそひて。
いさゝかまのどろめば。言はみ給て。いとうくてある
までおぼゆ。夏ゆりやまで。日ばおぼくなる所。いと
ど山ぢおぼゆしてわりなくおぼされれば。あや
のうこは下をき抱まとそとおぼすもうこじ
きるしつきをぬことぶもうきあて

きべかゝる文の気をかゝるとなりさに立てぞまるを
あへりのきちけて見あふ紀乃ふすやうに三面やう
にうきこうぶしとこゝ面ふとにかゝれてとこゝにもむ
きあかぬ和かとぐしこちてどざ面にかゝすれ
ばしまいぎうしまりに出給とてかとぐいで給とう
ちしてぶきてかどろへなり給ひさうしあへる
にぞおかぐさしのぶきあへる。かどろきて出ひ
もさし給。殿もつゐあてまうで侍めべし。まへ
の出ぎやきの久しくなりしをこまへざりつる給ぶ
そうしきわぎちりや。山の庭自こぐつまさりじまつ
うハさんとぞそがしけゆて立あぬ給ふけてみかぶ

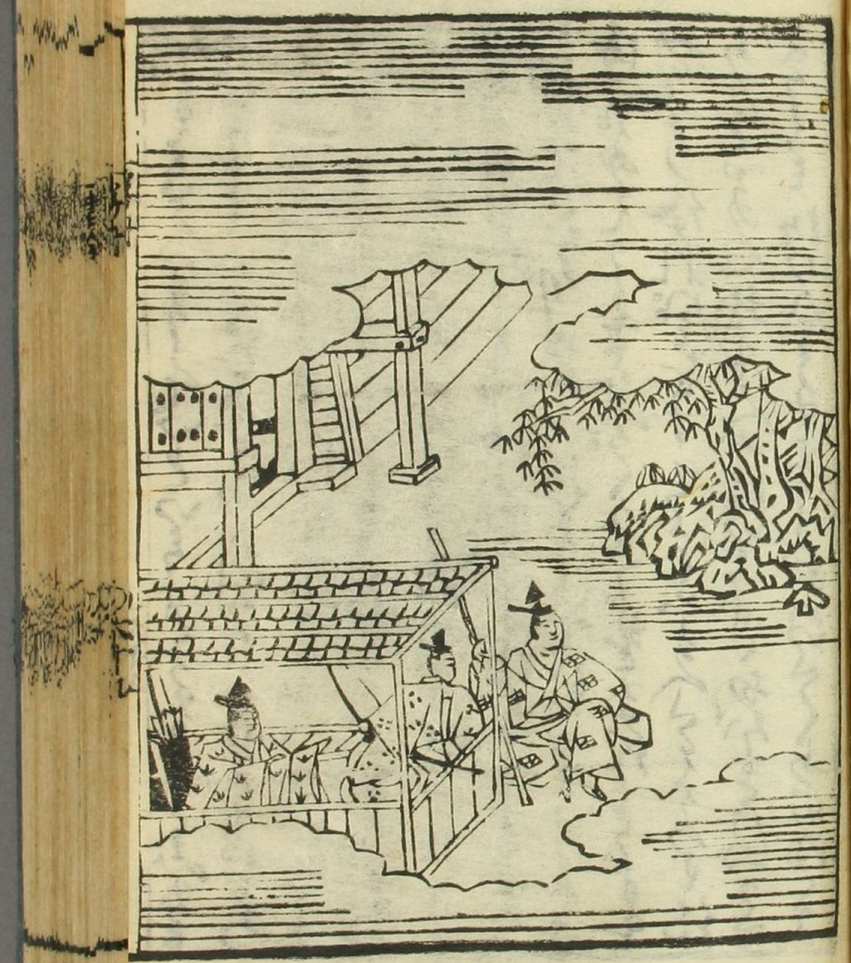
あぬ。かどぐハ白やをされまてなりあておまさ
の出るとも此ぐ道アしあざちりつぎてあるさ
まわたりあぬ。此殿ハをくまて出あふ。臣男も
矣ぞとこつるおやしとおがりなれば。ぎんちどなり
て突とも寸程にぎんかしよ寸。門給ること
いちまぐぞとらひ給けさ給ちよ出ぞ云の
ぐんのうへ時ちれ物語のまとに侍るをのくれむら
さ給のうすやうにて横につけさる文をかしのつま
ぞなよりて女房にとらせ侍りつゝあへつけて
しかくとひ侍つれば。とこぐひつゝ中よどのやうに
ア侍つる給いかゝまそぞとそけしかべ立てこを侍

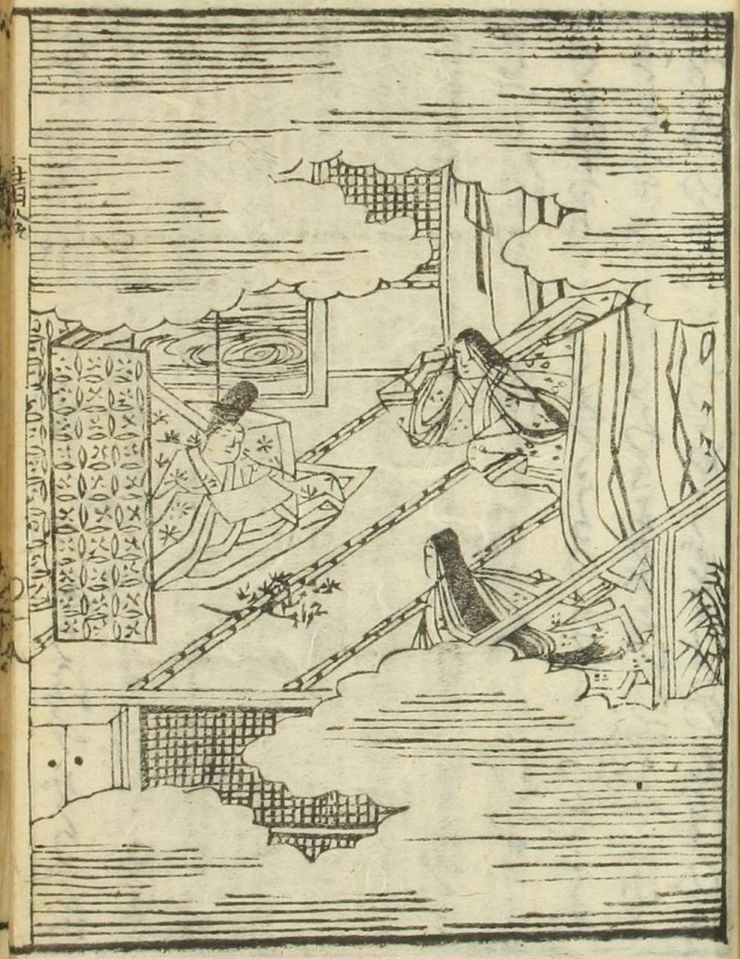
ひとりうじなひ[illegible]まこ[illegible]あやまちまこるもの[illegible]
らうどうなれどうるあやまちまこるものをいう
でう[illegible]ちんとて國のうちをもをひたしられぬ
すべて女のさいぐ[illegible]さぞさて[illegible]ちのうちにも
をいまへらざりしうばあ[illegible]のまへまなりてまうこと
い[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
さついでのやうに[illegible]れど上を下もうるすぢ
のことはなりしうごろくことはいとあしさつぎなり
[illegible]のちまでまはあらずとも人の[illegible]ほどくま
つけて[illegible]となり[illegible]ぬるまゝさるもぢなること
ともよ[illegible]人の[illegible]まはなりく[illegible]なりしかぶ

しさぐめてよ[illegible]めもはんぎし[illegible]さりてまうあやま
まぶまはまさを[illegible]りぐそなるこざ[illegible]まもなびをを
まてものなりくらなぎをくせ[illegible]そやをおとろへさ
せ[illegible]もいとやくなしさぞうりう[illegible]のなりひいらづ
き[illegible]さを[illegible]をまうがこれ[illegible]ぎにんを
いれてまどひゐて[illegible]まつけてもぞれよりこな
[illegible]とまさをのふ[illegible]そいとぐくるしく
いとおしかれといつまいまひとりうてなそう
きまでなまさを[illegible]ふぐとも[illegible]くをま
てこそおしめ[illegible]のうちまはしなりしなび
くんくことさるべきにあり[illegible]をまへいでやいと

まぬるあめりぐとはりとおがす抱かうぐ。ぴとにおしく
祢えてぐさりた我をば後とせたりし抱をおひたぬと
ぐとよんぐれいひしらすうたにうるしんかしるど。
あがめ給ふ切りたしきぐ。むなしきまにみちぬる
んちしまへば白いのいとじくおがしたちておれしまし
ぬおしがきのうたをこゝろにきいるしぐおれはこそと
いふ声ぐいさきげあり。ぬちのきてんしりのをのこ
をいれられば夜の人それをさんとふ。さきぐのをたひまも
まず。まづしりしてぞ家よりきこれはふまあるあり
といふ。君をがずざのれをよびてあひたりぐとしづ
らりしくいとゞおがぬきしたをおこよひはふようありぐ

しぐうたこぶけるれとくいまをたり。白ぬるどう
りそえあるかんとおがすふまりあるて。付附時宮を
いりて。侍従まあひてぐるべきさ海まあぬだうれとそ
つかえすぐ。附方ぐくしれひとまてどうくいひかまへて。侍
てあひたり。侍従付いるあるふるあしん。かの厩れの給ふす
あことありとて。殿ぬまある抱だのぐさりしがりぐ
ちたるこゝろまてぐいとりあれあり。おまへまも抱を
のこいとじく笑しこめるハ。海はことのうたじをあれ
を笑しとぐるくふまそはとぐんぐるしくあんみをする。
さしふこゝろひかんしきこ侍なるが。中こまいとあ
りあんやがてさもはんづるひをさせまべうしんよこ

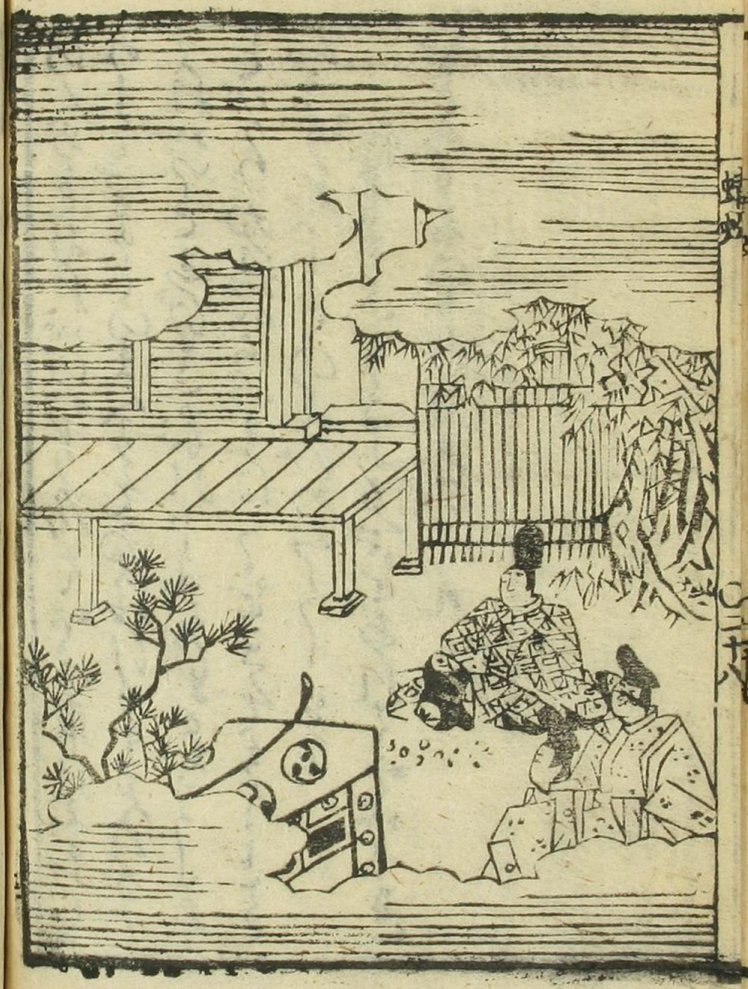
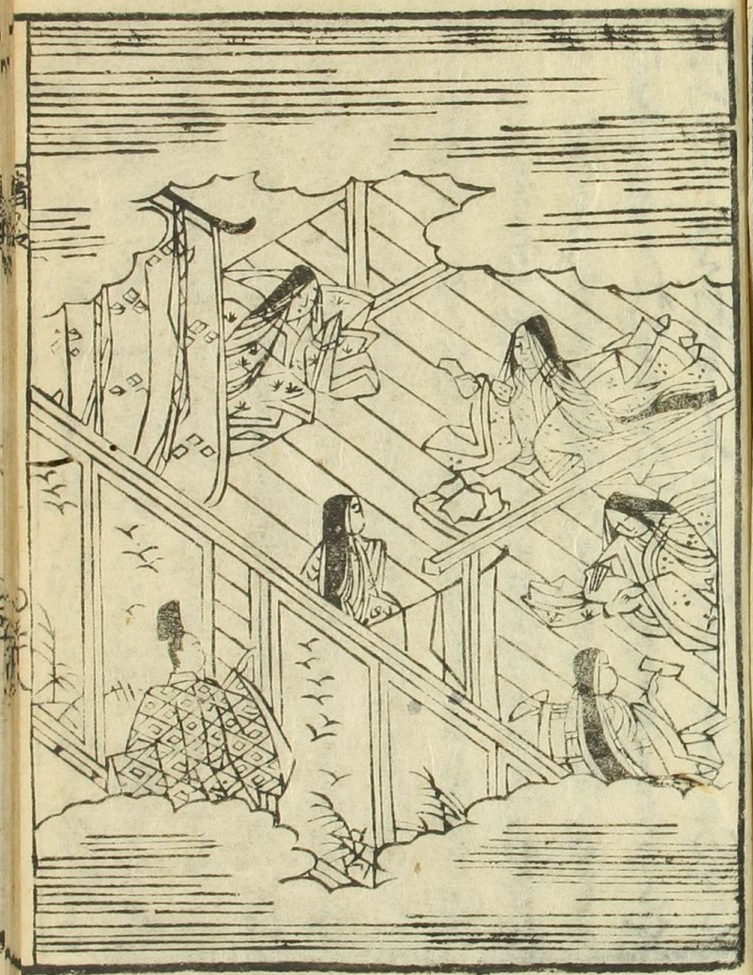




虫（白と答ふ）

女ぞんこのことをいふ

まおさまきをもまきをもまきをも

よくさくまじきんちし給。又の中人のまひを
じめしぐごとつけさりしさへゆしう。さでつぐ
あやまちまうしあひつる人なりと。ぞまてもる
ハ。毎くのあ給うろびくろ行まて。後のうしろも
いとあやしく。とそぎてしまるしけるあり也。
んゆかぎしろをふちしくきろ給まるん。いろふ
しふらん。さだうりの人乃よまてハいとめてくろ
まし人を。思びたることハうるしずしとえしら
で。我ゆかりまいうるることのまけるるらんとぞ
しふるるしんうしなどうろびまいとおしくおぼ
まで。けぐらひといふとハあまじられど。ぞこと

の人めとあれバのがり給まで。ぞ東れしちぐを
りしてつまどのまへうぞ。ぬ給けるもまんぐるし
られバいとしげきおれ下ぞ。ちけまをおまして。
とがうりぬ給へりぞいまはうをきてうんことを。
んううるべしとのミみめぐらしまて
我もまくこうさふるぞをあれまてバよまき
やどるまあのうげをしのもん